



東北復興日記

まだまだ

▶▶▶ 228



大正大学人間学部准教授

山内明美さん

地”と定義しているようで、今回は、志津川湾全体を湿地と捉えています」とのこと。南三陸町が申請した海藻藻場での登録が実現すれば、日本初となるそうです。

宮城県南三陸町は現在、志津川湾をラムサール条約湿地へ登録する準備をすすめています。順調にいけば、来年十月にアラブ首長国連邦のドバイで開催される締約国会議で登録される見通しです。
志津川湾は貴重な海藻藻場が存在することから、二〇一〇年九月に条約湿地潜在候補地としてリストアップされています。水鳥

三陸海岸の中ほどに位置する志津川湾は、寒流（親潮）と暖流（黒潮）、さらに日本海側から津軽海峡を通り抜けて流れ込む津軽暖流の影響を受け、陸上も海底も、珍しい生物相を観察することができます。海底では、暖かい海を代表する海藻のアラメと、冷たい海を代表する海藻のマコンブと一緒に生息しており、陸上ではタブノキが群生する樺島が国の天然

志津川湾を湿地登録へ

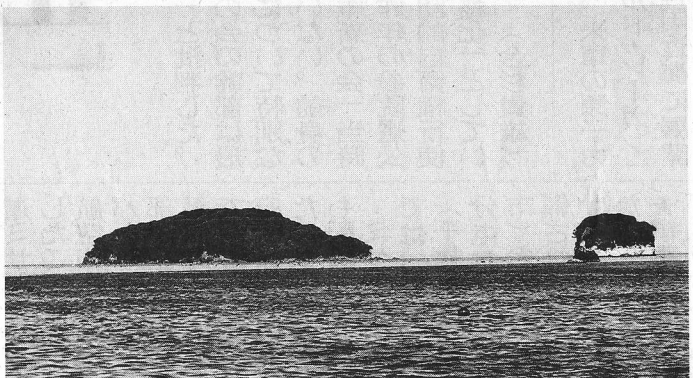
が好んで食べるアマモ類やアオサ類が豊富にあり、絶滅危惧種の水鳥コクガンなどが飛来します。

登録準備を進めている南三陸町ネイチャーセンター準備室の阿部拓三さんによると、「海域では水深六桁程度の浅い海底までを、湿

記念物に指定されています。

こうした変化に富んだ志津川湾の海洋環境から新種の生物が発見されることも珍しくありません。以前、このコラムで南三陸が世界で初めて山と海の国際認証を取得したとお伝えしました。ラムサール条約湿地の登録も完了すれば、南三陸は町が進める長期総合計画の方針に沿って「森里海ひとのちめぐるまち 南三陸」の最初の一步を踏み出します。

被災地域での高台移転に伴う宅地造成や河川工事といった開発が進む一方、山野河海の恩恵を受けてきた三陸沿岸のひとびとの「いのちめぐる」身体感覚から、地域保全の取り組みが始まっています。



志津川湾に浮かぶ樺島と竹島

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。